

わたしのすきな絵本

「今月の一冊 ～わたしのすきな絵本～」(6月)

<ご紹介者>

矢祭町長 佐川 正一郎
矢祭町子ども読書の街づくり推進委員会委員長



『鳥の巣みつけた』

鈴木まもる 文/絵 / あすなる書房
対象：小学校低学年から、中学生まで



鳥の種類や生存する環境、成長する過程がそれぞれ違います。その環境に適応する能力に感動します。また、草花や魚の成長するのも楽しいものです。

ちょうどこの絵本を読んだ後、私の工場にも卵をかかえた鳥の巣を見つけました。何の鳥かわかりませんが、これから観察します。楽しみができました。

人間の成長も自然や社会環境の変化に対応しなければなりません。特にコロナ禍においては、強く感じます。

内容のご紹介

家の近くで見つけた古い鳥の巣。いったい、どんな鳥が住んでいたんでしょう！

そんな素朴な疑問をきっかけに... オーストラリアやシベリア、そして南極まで、見つけた鳥の巣全35種をつぶさに描いた美しい絵本です。

鳥は毎年、卵を産むとき巣をつくります。卵からヒナが飛べるようになるまで巣で暮らします。でも、ヒナが巣立ってしまうと、もう巣はつかいません。夜は木の枝などにとまって寝ます。残された巣は雨や風や雪で自然にこわれていきます。

(ツバメ、ワシなどの巣はこわれにくいので残っていればつかえます。)

親鳥はこわがりやすいので、春から夏のあいだは、もし巣を見つけても絶対に近づかないようにしましょう。

(矢祭もったいない図書館)